

平成 30 年度  
第 3 回 北海道ゲーム人材育成委員会  
および  
第 2 回 北海道 CG 人材育成委員会  
合同会議 議事録

会議日付：平成 30 年 10 月 16 (月)

会議時間：15:00～17:00

会議場所：吉田学園情報ビジネス専門学校 5階 503教室

議長：橋本直樹

書記：北村吉正

出席者：中嶋 知彦 (株式会社ロケットスタジオ 取締役 東京支店長)

田中 政史 (学校法人美専学園 北海道芸術デザイン専門学校 マルチメディアデザイン学科長)

三上 哲 (ハ・ン・ド 執行役員札幌スタジオ GM)

田村 禎広 (株式会社グループボックスジャパン 常務取締役)

小林 隆志 (exsa 株式会社 札幌スタジオ所長)

小椋 透 (株式会社 G-Style CG 制作部 モーションリードデザイナー／広報)

桐畑 卓也 (社団法人北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会 事務局)

橋本 直樹 (吉田学園情報ビジネス専門学校 副校長)

千葉 一俊 (吉田学園情報ビジネス専門学校 学科長)

川東 博之 (吉田学園情報ビジネス専門学校 主任)

井畑 弘恵 (吉田学園情報ビジネス専門学校 事務局)

北村 吉正 (吉田学園情報ビジネス専門学校 教員)

オブザーバ：松橋 史明 (一般社団法人北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会 事務局)

小野 槇子 (三菱総合研究所)

欠席者：佐藤 孝憲 (学校法人片柳学園 日本工学院北海道専門学校 事務局 入学広報課)

柏尾 典秀 (学校法人栗原学園 北見情報ビジネス専門学校 副理事長)

安保 英樹 (株式会社アレクト 取締役副社長／CTO)

篠原 たかこ (公益財団法人画像情報教育振興協議会 教育事業部教育企画推進部部長)

## < 議 事 録 >

### 1. 平成30年度の事業計画概要について（整理・確認） および、2. 事業計画における人材育成委員会の在り方について

(ア) 資料にて、平成30年度の事業計画と個々の施策の関連について説明した

- ① 委員会運営について、前年度の反省とお詫び（橋本）
  - 1. 1年目の委員会実施数が十分ではなかった事
  - 2. 1年目に予定していた事案の実行が拙速となり、今年度にも影響している事
  - 3. 委員の皆さんとの議論が十分ではない中で事業を進めた事

(イ) 今後の事業についての情報整理

- ① 3年間の事業として、情報を整理する
  - 1. 主軸となるカリキュラム実施とそれに至るまでの各事業との関連性について説明
    - (ア) 初年度はアンケート収集と資料作成に費やした
    - (イ) 2年目はアンケート結果から抽出したスキルマップの作成と、次年度カリキュラムの作成
    - (ウ) 3年目にカリキュラムの実施と報告
  - 2. 別軸として、継続的な委員会運営及びその体制づくりについて視察を実施する
    - (ア) 福岡視察については終了
    - (イ) 今後、カナダ視察及び神戸視察を予定している
  - 3. 質疑応答
    - (ア) 特には無い

### 2. 報告事項

(ア) 福岡視察報告について

- ① 福岡視察報告書を配布し、内容を説明
  - 1. ご意見等
    - (ア) 参加者の所属表記にミスあり
      - ① 修正後、報告書を実施委員会委員へ展開する

### 3. 協議事項

(ア) スキルマップ、イベント実施、カリキュラム作成について

- ① 事案進行について方針共有
  - 1. 今後実施する物について
    - (ア) 精度の高い物にするために、委員で十分に話し合って詳細を決めていきたい
- ② スキルマップ作成意義について
  - 1. スキルマップを作成することにより、企業が求めるスキルが明確になることを共有
- ③ イベント案の説明
  - 1. 「専門学校では習得が難しいスキル」と「新卒5年目までに身につけて欲しいスキル」を得るための、例として提示した
- ④ ご意見等

1. アンケート対象企業の事情や環境を考慮したい
2. 各スキル項目の詳細情報が必要
3. 各スキル育成の企業と学校での分担を検討したい  
(ア) スキル育成について、企業側できる事と学校側でできる事があると考え
4. 次回会議について  
(ア) スキルマップについて、ゲーム分野とCG分野を分けて実施する
  - ① 事前に各社より入社までに必要なスキルの観点でチェックしていただく
    1. その上で項目の絞り込みをする会議として実施

(イ) カリキュラムについて

- ① 次年度の実施に向けて、早めに内容を決めて計画を立てたい

4. その他

(ア) カナダ視察について

- ① 日程と視察先について現況を報告

(イ) 30年度の業界認知度向上イベントについて

- ① 別団体が実施予定の業界イベントについて説明
  1. 本案件の実施目的に合致するため、内容を説明した

以上